日１４－３６（ショートコメント）

「愛の渦」　　✵✵✵

２０１４（平成２６）年３月８日鑑賞

<テアトル梅田>

監督・脚本・原作：三浦大輔
女１、メガネの女子大生／門脇麦
男１、暗いニートの男／池松壮亮
女２、気の強そうな保育士／中村映里子
男２、真面目そうなサラリーマン／滝藤賢一
女３、可愛らしい今どきのＯＬ／三津谷葉子
男３、茶髪のフリーター／新井浩文
女４、大量のピアスを付けた痩せぎすの女／赤澤セリ
男４、工場勤務の太った男／駒木根隆介
女５、途中参加のカップル／信江勇
男５、途中参加のカップル／柄本時生
店長／田中哲司
店員／窪塚洋介
２０１４年・日本映画・１２３分
配給／クロックワークス

◆私は、三浦大輔を中心に結成された演劇ユニット「ポツドール」のことも、第５０回岸田國士戯曲賞を受賞した戯曲『愛の渦』が大評判になっていることも、全然知らなかった。しかし、「男２万円、女１千円、カップル５千円」「乱交パーティー」「着衣時間は１２３分中１８分半」等々の過激な宣伝文句や、何回か観た予告編で興味津々。

　舞台は、閑静な住宅街にあるマンションの一室だ。客としてやってきた真面目そうなメガネの女子大生、女１（門脇麦）に対する店長（田中哲司）の説明によると、「ここはセックスがしたくてたまらない人たちが集まる場所」らしい。秘密クラブ「ガンダーラ」の意外にキレイで立派な一室の中には今、バスタオルだけの男女８人が。なるほど、こりゃ演劇の舞台としては面白そうだし、「性欲」をとことん追求するというテーマも面白そうだ。

　何でも、三浦監督が「心中するつもりで」作品を撮ると決め、オーディションによってヒロインに抜擢した新人女優、門脇麦は「地味で真面目そうな容姿ながら、誰よりも性欲が強い女子大生」の女１を演じるらしい。もちろん「Ｒ１８＋」指定だが、公開初日の映画館は久しぶりに満席に近い。こりゃ期待できそう！

◆他方、男１となる、暗いニートの男（池松壮亮）が親からの仕送りの２万円を引き出すシーンや、女１が店長の説明を聞き、「一瞬帰るのかな」と思ったら、意外にも「参加します」と宣言するシーンなど、着衣時間内の演出は結構面白い。しかし、バスタオル一枚だけになった合計８人の男女が互いに話のきっかけを探り合うシーンになると、途端にバカバカしくなってくる。男女４人ともこのクラブ（＝風俗店）のシステムを了解してカネを払い、午前５時まで「ヨーイドン、スタート！」となったのだから、さっさと相手を決めて、ベッドの置いてある下の部屋に降りて行ったら・・・。

　何ゴトも合理的に考え決断力の早い私はもちろん、私たち世代のおじさんなら誰でもそう思うはずだが、今ドキの若者がここで交わす会話はあまりにバカバカしい。どうして、こんな場で「あなたのお仕事は？」なんて聞くの？また、何のために自己紹介の必要があるの？もちろん三浦監督の狙いは、即物的な乱交パーティーを描いただけでは戯曲にも映画にもならないため、そんな会話の中で人間の奥底に潜む性的欲望の真髄を描きたいのだろうが、今ドキの若者特有のスローテンポな会話と、あいまい表現の続出にうんざり。

◆とはいうものの、くだらないチンタラした会話の力を借りてやっと最初のカップルがエッチを始めると、その後も次々と。そして、無事４組のカップルがコトを終えると、バスタオル姿で向き合っていただけの瞳には容易にわからなかった男女４人の「性態」がかなり明らかになったからすごい。すると、その後の会話は一変。なるほど、なるほど・・・。そして、２回目、３回目と互いに相手を変えてのセックスが展開していく中、可愛らしい今ドキのＯＬ、女３（三津谷葉子）と気の強そうな保育士、女２（中村映里子）との間で女のバトルが勃発！なるほど、なるほど・・・。

　もっとも、三浦監督が本作で描きたかったテーマは確かにストーリー（？）の展開につれて少しずつ見えてくるが、私に言わせればその程度のことはすべて想定の範囲内。一歩まちがえば、ちょっとヤバそうな茶髪のフリーター、男３（新井浩文）が店員（窪塚洋介）に文句をつけ、「カネを返せ！」とごね始めるシーンになると、「すわ、事件勃発か」と思ったが、残念ながらそれもなし。また、どうみても客としてはおかしいだろうと思われる、大量のピアスを付けた痩せぎすの女４（赤澤セリ）の素性は服を着た後に明かされるが、それも想定の範囲内だからインパクトがない。

◆アレレ、こりゃすごいなと私にもインパクトがあったのは、当初会話にほとんど入れなかったメガネの女子大生が、セックスの最中にすごい声をあげ続けること。なるほど、こりゃすごい。しかして、彼女の日常生活は？演出的に面白いのは、夜中の３時頃に、恋人同士という男５（柄本時生）と女５（信江勇）が途中参加してくることだが、バラエティーならともかく、こんなシリアスな映画に女５のような（ブタ）女のセックスシーンを登場させるのはＮＧだろう。男１はイヤイヤながら（？）そのお相手をしていたが、スワッピングの楽しみのためにやってきたという男５の、あっと驚く豹変ぶりとは・・・？ここまでくれば、私の目には本作は「性欲」をテーマにしたシリアスな人間ドラマではなく、単なるバラエティーになってしまったが・・・。

◆本作の登場人物は、バスタオル姿がよく似合う（？）４人ずつの男女、店長と店員、そして途中参加のカップルだが、主役はあくまで男１と女１の２人。しかして、午前５時に乱交パーティーのお開きとなった後には、この２人のちょっとした恋模様（？）が展開するのでそれに注目！パンフレットの中で、女１を演じた門脇は「印象に残ってるシーンやセリフは？」の質問に対して、「好きになってんじゃねーよ！」を挙げているが、さてその意味は？

　ストーカー防止のためケータイ番号の削除を要求する店のシステムには感心させられるが、その上をいく（？）女１の行動とその心理に注目したい。それにしても、午前５時に解散し、午前６時に男１を呼び出した「話し合い」を終えた当日、大学のキャンパス内で友人と楽しそうに雑談している（？）女１の姿を見ると、男としてはやっぱり複雑な気持ちに・・・。